

## 4. 研 究

---

Research



## 【1】 青森ブランド価値創造研究

### 1. 青森ブランド価値創造研究の設立

平成26年度「地(知)の拠点整備事業」の一環として、人口減少等の課題を克服し、「青森ブランド」価値の創造を目指す青森県、弘前市と協働し、青森を愛する気持ちを礎として新しい未来を切り開くため、青森県における地域の課題を解決するための研究活動を助成する「青森ブランド価値創造研究」を設けた。学内公募により9件の申請があり、審査委員会の審査により、6件を採択し、地域志向教育研究を推進した。

### 2. 平成26年度 青森ブランド価値創造研究 募集要項

#### (1) 目的

平成26年度「地(知)の拠点整備事業」の一環として、人口減少等の課題を克服し、「青森ブランド」価値の創造を目指す青森県、弘前市と協働し、青森を愛する気持ちを礎として新しい未来を切り開くため、青森県における地域の課題を解決するための研究活動を助成するものである。

#### (2) 応募資格

応募資格は以下に示す条件をすべて満たすこと。

- ① 研究代表者は、本学の教育・研究・社会貢献を地域志向に改革する意思のある国立大学法人弘前大学職員就業規則第3条2項に定める大学教員(以下「本学教員」という。)であること。
- ② 研究代表者は、青森県又は弘前市における地域の課題を解決するための研究活動を行うこと。
- ③ 研究実施体制として、複数の研究者(学外者も含めることが望ましい。)による研究グループを構成し、学際的、分野横断的な研究に取り組むこと。
- ④ 申請する研究課題は、既に機関研究等の学内研究助成事業を獲得している研究課題ではないこと。

#### (3) 研究期間及び研究費

- ① 単年度契約とし、研究期間は、平成27年2月までに終了するものとする。(原則として、同一の研究課題を翌年度以降も上限を5年として継続して申請できるものとする。)
- ② 研究費は、年間1,000千円を上限。

#### (4) 採択予定数

4課題程度を予定。なお、採択の際は、予算の範囲内において減額することがある。

#### (5) 応募期間

平成26年12月16日(火)～平成27年1月6日(火)

#### (6) 申請方法

提出書類は、次のとおりとする。応募にあたっては、研究計画調書を所属する各部局長に提出する。各部局長は提出された研究計画調書等を取りまとめの上、学長に提出する。

- ① 平成26年度「青森ブランド価値創造研究」申請課題一覧
- ② 平成26年度「青森ブランド価値創造研究」研究計画調書

(7) 審査体制等

- ① 選定に当たっては、審査委員会による書類審査(必要に応じてヒアリング審査を実施することがある。)を実施し、学長が最終決定するものとする。
- ② 「青森ブランド価値創造研究」成果報告書により、毎年度、評価委員会において、各教員の成果や経費の執行状況を確認し、進捗状況等の実績の評価を行う。

(8) 成果の公表及び報告

- ① 平成27年2月末日までに、「平成26年度青森ブランド価値創造研究成果報告書」及び「支出簿」を各部局長に提出し、各部局長は、関係書類を学長に提出する。なお、その際、領収書など経費の用途、金額を証明できる書類等を提出すること。
- ② 地域を志向した授業科目において、研究内容を還元すること。
- ③ セミナー・公開講座等において、研究成果を地域社会に還元すること。

(9) その他

- ① 「青森ブランド価値創造研究」(地域志向教育研究経費)は、大学改革推進等補助金により文部科学省から経費措置されるものであるため、「補助金に係る予算の執行の適正化に関する法律」等により、経費の執行に一定の制限がある。
- ② 経費の使用に当たっては、最少の費用で最大限の効果があがるようにすること。

## 3. 平成26年度 青森ブランド価値創造研究 採択課題一覧

NO.	研究代表者	採択課題名	研究概要
1	人文学部 教授 杉山 祐子	「青森スタイル」構築と提言のためのコア課題同定にむけた基盤構築	青森県の基本計画「未来を変える挑戦」が掲げる戦略プロジェクト「人口減少克服プロジェクト」に、人文社会科学的観点から接近し、持続可能な社会への新たなモデルとなる「青森スタイル」の構築と提言のコアとなる課題を同定するための基礎的調査研究を実施する。
2	教育学部 講師 島田 透	もっどめ〜ぐなるど 「あおいもりの地酒」酒質向上事業	科学的情報に基づいた酒造りや品質管理を行うことで、青森県産の清酒の酒質を向上させ、商品力を更に強化させる。
3	理工学研究科 教授 笹川 和彦	遠隔医療のための視覚・触覚提示に基づいた機構制御システムの開発	慢性的な医師不足により青森県のような地域の医療は疲弊しており、遠隔医療の必要性が高まっている。本事業では、センサシステムを基盤技術とし、触診や聴診、カテーテル操作、外科手術といったヒトの手の感覚が重要となる作業をネットワークを介してフィードバックするシステムと駆動デバイスを開発する。
4	農学生命科学部 准教授 殿内 暁夫	弘前大学発「白神微生物ブランド」の開発と普及に関する研究	これまで酵母に限定してきた取組を他の微生物にも発展させ、5年間の研究スパンの中で弘前大学発「白神微生物ブランド」の開発と普及を通じ、青森県と弘前市における食産業の強化に貢献する。
5	被ばく医療総合研究所 教授 床次 眞司	原子力災害時に対応可能なモバイル式放射線モニタの開発に向けた基礎研究	青森県の下北半島にはわが国有数の原子力施設を抱えており、本学でも被ばくプロフェッショナル人材育成計画等により放射線の専門家の養成が展開されている。本事業では、青森県民が身の回りの放射線に興味を抱くことができるように、安価であり簡易的かつ、携帯可能な放射線測定器を開発する。
6	食料科学研究所 教授 嵯峨 直恆	青森県産農林水産物の文理芸術融合型高機能ブランド化に資する実証研究	①青森県産の食材に関する調査を行い、生産現場の現状を分析し、食材の高機能ブランド化の可能性を把握する。②調査・分析の情報から食材の機能性の洗い出しや調理(料理・加工)方法を洗練することで青森県産食材の高付加価値化を図る。

## 【2】 学内研究助成事業

### 1. 若手・新任者研究支援事業「地域志向型」枠の設立

学内の研究助成事業である「機関研究」（本学の看板となる研究の支援）と「若手・新任者研究支援事業」（若手・新任者を対象とした研究支援）に、青森県における地域の課題（人口減少・食・健康等）を解決するための研究である「地域志向型」枠を設けた。

機関研究では採択がなかったが、若手・新任者研究支援事業では10件を採択し、学内資金においても地域志向教育研究を推進した。

また、平成27年3月5日に学内において、プレゼンテーション、パネル展示等による研究成果発表会を実施した。

### 2. 平成26年度 若手・新任者研究支援事業(地域志向型枠) 採択課題一覧

NO.	研究代表者	採択課題名	研究概要
1	教育学部 准教授 増田 貴人	ダウン症児者とその家族を対象とした自助組織の意義に関する世代間意識差の検討	ダウン症児者とその家族の自助組織について、会員がその意義をどのように捉えているのか調査し、今後の本県における障害児者支援の充実に寄与する。
2	保健学研究科 助手 小池 祐士	脳卒中患者の排泄動作障害の改善に向けた衣服の考案と効果検証	排泄動作の自立は、脳卒中患者にとって重要な課題であり、脳卒中の罹患率が高い青森県では特に解決が望まれている課題である。本研究では、脳卒中患者の下衣操作障害に焦点を当て、「衣服の変更・工夫」に着目し、下衣操作が容易に行える下着を考案し、その効果を検証する。
3	保健学研究科 助手 山内 可南子	髄膜脳炎を惹起するバラムチアモンドリラリスの青森県下棲息状況と感染経路の解明	ヒトの生活環境下に存在することが示唆されているバラムチアモンドリラリスの青森県における棲息状況、遺伝学的・形態学的分類、純培養と動物への感染実験、さらに早期発見や治療への基礎検討を行う。
4	農学生命科学部 助教 前多 隼人	カシスアントシアニンの体内動態と肥満による慢性炎症疾患の改善作用	カシス(青森県が日本一の生産量)による肥満を起因とする慢性炎症状態の改善作用を評価するとともに、体内への吸収量や吸収動態を分析し、他の果実と異なる機能性を明らかにする。これによりカシスが健康の向上に役立つ食材であることを示し、食資源の高付加価値化と県民の健康の増進に役立つ利用を目指す。
5	農学生命科学部 准教授 石塚 哉史	グローバル体制下における東北産地域特産物の存立条件と持続的発展に関する実証的研究	東北地方の中でも食料自給率が高く、地域特産物を豊富に有している青森県、秋田県、岩手県、山形県の4地域に焦点をあて、これらの産地において地域農業が存続する上での必要条件、並びに持続的発展に向けた対策について実態調査を基に地域特産物の生産・流通構造に関する現状と問題点を解明する。

NO.	研究代表者	採択課題名	研究概要
6	農学生命科学部 准教授 遠藤 明	ナガイモの品質向上に向けた青森県 上北地域における黒ボク土畑地の土 壌物理性の改良	根菜類作付土壌の物理性を改善する手法を開 発し、「高品質なナガイモ生産を可能にする土壌 透水性と保水性の指標」を構築する。
7	農学生命科学部 准教授 丸居 篤	環境保全型の飼料用米栽培のための 基礎的調査	青森県では最近飼料イネの栽培が顕著に増加し ている。また、全国的にも1, 2位を争う作付面積 であり、今後飼料用米の栽培が青森県で重要に なると考えられる。そこで、①飼料用米および食 用米水田の排水路における水質調査を行い、統 計分析を行う。②飼料用米および食用米水田に おいて生育ステージ別に生物調査を行い、統計 分析を行う。③農家の協力を得てモニタリング環 境を整える。
8	農学生命科学部 助教 松本 和浩	生産者教育および食育用果樹遺伝資 源保存園の開発	将来の研究や地域社会のニーズを見据え、大学 の特色を生かす形で青森県の果樹産業に貢献 し、成果を世界に発信するためにはどのような園 場が必要なのかを熟考し、苗木を育成するとと もに既存の老木園を廃園にし、そこに10年後に 研究および社会貢献活動に利用できるよう多 目的果樹園を整備する。
9	北日本新エネルギー研究所 准教授 井岡 聖一郎	青森県産砂鉄を利用した地中熱交換 量増進グラウト材の開発	青森県産出の砂鉄を利用した地中熱交換量増 進グラウト材の開発を試み、地下からの採放熱 量が少ない地域でも地中熱を有効活用するため と地下水資源の利用との共存を図るための重要 な知見を与える。
10	食料科学研究所 准教授 永長 一茂	癌予防効果を持つ青森県産農林水産 物を見出すための動物実験法の開発	短命県で知られる青森県では癌の発症率も高 い。“食の機能強化”を掲げて設置された食料科 学研究所としては、食生活の改善を癌予防に役 立てたい。青森県産農林水産物の癌予防効果を 調べるため、ハイスループットな評価法を開発す る。

# 平成26年度 弘前大学若手・新任研究者支援事業 研究成果発表会

平成27年**3月5日(木)** 15:00-17:00 (19:00)

コラボ弘大8階 八甲田ホール

新たなイノベーションの創出や、大型の競争的資金獲得には、幅広い分野の研究者等との研究グループの構築が不可欠です。このたび、弘前大学若手・新任研究者支援事業に採択された研究者による研究成果発表会を開催します。

研究仲間が欲しい…！ 憧れの先生に近づきたい…！ 特定の専門分野の先生と仲間になりたい…！ ぜひ足を運んで、弘前大学の研究者の熱意あふれる研究成果に耳を傾けてみませんか？ あなたの「〇〇したい！」が、あなたの研究を加速させます。奮ってご参加ください！！

どなたでも参加可能！

- 15:00~15:15 開会挨拶 (アイスブレイク) (15)
- 15:15~16:30 プレゼン(75)
- 16:30~17:15 理事挨拶/マッチングタイム(45)
- 17:30~19:00 交流会(90)

大学会館2階 スコーラム(会費3,000円)

★交流会で**最優秀賞の表彰**を行います！

## 募集のご案内

本研究成果発表会では、若手・新任研究者支援事業採択者以外で①**ポスター展示**及び②**交流会**に参加される方を**広く募集**しています。多くの方のご参加をお待ちしております！

申込み・詳細について下記担当まで！ **申込み期限:2/23**

【担当】 研究推進部研究推進課 三上・佐藤・鷺谷・吉田  
内線:3909・3912・3913 Mail: jm3909@cc.hirosaki-u.ac.jp

